

「横浜観光」における新型コロナウイルス感染症拡大の影響と マイクロツーリズム

木村 恭輔¹・巖城 あみる¹・小林 未久¹・鈴木 拓海¹・阿部 亮吾²
(¹愛知教育大学・学, ²愛知教育大学)

I はじめに	III 「横浜観光」における観光客の意識と行動
II 調査地域の概観と調査の概要	IV おわりに

キーワード：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、マイクロツーリズム、横浜観光

I はじめに

1. 研究の背景と目的

観光産業は交通産業や宿泊業、飲食産業、アミューズメント産業、土産品産業など幅広い分野を包含し、日本経済に有する影響は非常に大きい。しかしながら、2020年初頭以来、新型コロナウイルス感染症拡大（以下、COVID-19）を防ぐための「新しい生活様式」への転換や外出自粛、国と国との往来の制限によって、観光産業は大きなダメージを受けている。日本政府観光局（JNTO）の『訪日外客統計』によると、コロナ禍以前の2019年の年間訪日外客数が31,882,100人だったのに対し、2021年は245,900人と99.2%減であった¹⁾。

このように、COVID-19で訪日外国人観光客が大きく減少するなか、観光産業はインバウンド観光に依存しない、新たな観光のあり方を模索することが求められている。そこで注目されるのが、株式会社星野リゾート代表の星野佳路氏が提唱する「マイクロツーリズム」である²⁾。マイクロツーリズムとは、「自宅から1～2時間」で来訪可能な観光形態のことであり、COVID-19の「感染拡大を防止しながら地域経済を両立する、新たな旅のあり方の1つ」であるという。すなわち、従来よりも集客圏を縮小させたツーリズム、と解釈できよう。鈴木（2021）によると、2020年4月以降、星野リゾートはマイクロツーリズム市場への転換を進めた結果、たとえば「星のや京都」ではインバウンド観光の消失分を埋めるのにマイクロツーリ

ズムが貢献したとされる。

そこで本研究では、アーバンツーリズムの代表都市である「横浜観光」を取り上げ、実際に観光客の意識や行動がCOVID-19によってマイクロツーリズム化しているのかを明らかにする。

2. 先行研究と問題の所在

COVID-19が観光意識や行動にもたらす影響について、日本政策投資銀行北陸支店・富山事務所（2020）は、北陸3県在住者が県内や近隣県への日帰り観光を好む傾向が強くなっていることを指摘している。また、公益財団法人日本交通公社観光地域研究部市場調査チーム（2020）によれば、COVID-19流行下でも日本人の主な旅行動機は変わらない一方で、収束後に旅行先や旅行行動は「変化する」と述べた人が一定程度いるという。他方で、マイクロツーリズムを好む傾向はCOVID-19以前から存在しており、COVID-19の影響でそれが生じたわけではないとする、和歌山市内在住者を対象にした研究もある（高橋2020）。

横浜観光については、横浜市文化観光局（2020, 2021）が、COVID-19の影響で滞在時間を減らしたり、立ち寄る観光スポットを減らすなど、消極的な観光行動がみられることをすでに指摘している。しかしながら、どのような観光客がCOVID-19によって訪問距離や滞在時間、観光スポット数、使用金額、仲間の人数規模を変化させたのかは改めて分析する必要がある。そこに本研究の意義がある。

II 調査地域の概観と調査の概要

本研究では、調査地域として横浜市を取り上げる。横浜市は2022年2月現在、約377万人もの人口を擁する神奈川県庁所在地である。東京方面からのアクセスがよく（JR上野東京ラインを用いて東京駅—横浜駅間は26分）、新横浜駅を経由すれば新幹線で東西方面どちらからも容易に観光客を誘引できる立地である。首都圏のベッドタウンという側面もありながら、1859年の開港以来、神戸港や長崎港にならんで外国人居留地が形成され、中華街や山手西洋館街などを通じて明治期に外国文化がいちはやく流入した歴史的港町でもある。近代貿易港の礎を支えた横浜赤レンガ倉庫や象の鼻パークの整備、アーティストの山崎まさよし「one more time, one more chance」で歌ったJR桜木町駅、1990年開業の遊園地よこはまコスモワールド、1980年代以降のウォーターフロント再開発によって生まれ変わったみなとみらい21や横浜ランドマークタワー、そして横浜中華街はエスニック・グルメブームに乗って一大観光地となっている。それゆえ横浜市の観光入込客数は、COVID-19前の2019年間で延べ55,823,951人（宿泊客数7,084,510人、日帰り客数48,739,441人）と、圧倒的な吸引力を誇っている³⁾。首都圏にあっておしゃやかな港町ということで、ドラマのロケ地としても多く取り上げられている。

そこで本研究では、観光客が多く、横浜市文化観光

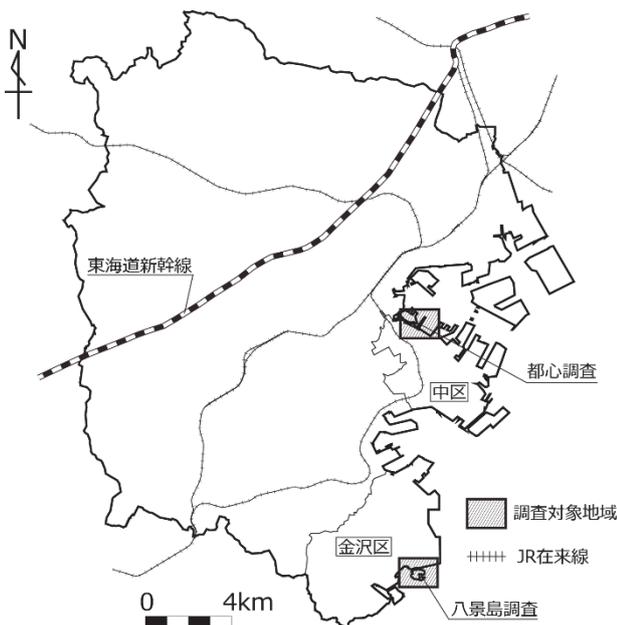


図1 調査地域の概観

局の『集客実人員調査及び観光動態消費動向調査報告書』でも調査場所として取り上げられる中区の「横浜赤レンガ倉庫周辺」ならびに「山下公園」での調査を「都心調査」、金沢区の横浜・八景島シーパラダイスでの調査を「八景島調査」と題し、2022年3月16日（水）～17日（木）に両地域で観光客へのアンケート調査を実施した（図2）。以下、その結果を都心調査と八景島調査に分け、観光客の意識と行動を分析する。

III 「横浜観光」における観光客の意識と行動

1. 都心調査

1) アンケート回答者の基本属性

都心調査で回答を得られた128人のうち、（性別未回答者13人を除き）男性は62人（53.9%）、女性は53人（46.1%）とそれほど偏りはなかったものの、年齢層では10代が66人（57.4%）、20代が24人（20.9%）であり、10代～20代が8割近くを占めた（表1）。これは、横浜赤レンガ倉庫周辺が特に若者にとって人気の観光スポットであったからであろう。

居住地は横浜市内が35人（30.4%）、（横浜市を除く）神奈川県内が28人（24.3%）、東京都を中心とした関東地方が36人（31.3%）、そしてそれ以外が15人（13.0%）という結果となり、都心調査からは横浜観光が関東地方を中心とした集客圏をもつことが分かった。

2) 訪問観光スポット

つづいて、都心調査の回答者が訪れた（あるいは訪問予定の）観光スポットを尋ねたところ、「横浜中華街」（81人、訪問率63.3%）が最多で、「みなとみらい21」（55人、43.0%）や「よこはまコスモワールド」（37人、



図2 アンケート調査の様子（八景島シーパラダイス）

（2022年3月17日、阿部亮吾氏撮影）

表1 回答者の基本属性 (都心調査)

性別	年齢層		居住地 (人)					
			神奈川県内		関東地方	関西地方	その他	
	人	(%)	横浜市内					
男性	10代	37	59.7	7	13	11	2	3
	20代	17	27.4	4	2	5		6
	30代							
	40代	1	1.6			1		
	50代	2	3.2	1		1		
	60代以上	5	8.1	1	1	3		
計	62	100.0	13	16	21	2	9	
女性	10代	29	54.7	10	9	10		2
	20代	7	13.2	1	1	3		
	30代							
	40代							
	50代	4	7.5	3		1		
	60代以上	13	24.5	8	2	1		2
計	53	100.0	22	12	15	0	4	

(アンケート調査により作成)

28.9%), 「横浜ランドマークタワー」(25人, 19.5%)が続いた(表2-a)。いずれの観光スポットも横浜赤レンガ倉庫から徒歩圏内であることから、少なくとも2割以上の人々がこれら3~4か所の観光スポットを周遊していると考えられる。また山下公園での調査では、「大栈橋」と回答する人も多かった。一方、野球好き以外には興味を惹かない「横浜スタジアム」やコンサート会場の「横浜アリーナ」、「元町」や「山手西洋館街」はあまり訪問対象にはならなかった。

これを年齢層や居住地別でも傾向に大きな違いはみられないが、10代は「横浜中華街」や「よこはまコスモワールド」の訪問率が高かった。

3) COVID-19の影響

次に、今回の横浜観光にあたってCOVID-19が「観

光地への距離」「滞在時間」「訪問する観光スポット数」「使用金額」「仲間の人数規模」にどの程度影響したのかを尋ねた(図3)。その結果、全体では「変化なし」が大勢を占めたが、年齢層でいえば10代~20代の若年層はCOVID-19によって観光意識や行動をあまり変えておらず、30代以上は逆に距離を近く、滞在時間を短く、訪問数を少なく、仲間の人数規模も小さくする傾向が顕著に出た。若年層の場合、もともと金銭的に余裕がなく、COVID-19の前から居住地に近い範囲で観光する傾向があったことも影響したと推察される。

他方、居住地でみると、横浜市内~関東地方からの近隣来訪者はCOVID-19の影響でマイクロツーリズムを選択しているが、関西地方で遠からの人にとってむしろCOVID-19と横浜観光は無関係のようである。以上のことから、COVID-19は30代以上で、かつ関東地方よりも近距離からの横浜観光(都心観光)にマイクロツーリズム化をもたらしていると解釈される。

2. 八景島調査

1) アンケート回答者の基本属性

八景島調査で回答を得られた123人のうち、(性別未回答者11人を除き)男性は49人(43.8%)、女性は63人(56.3%)と、こちらはやや女性が多くなった(表3)。年齢層では10代が52人(46.4%)、20代が39人(34.8%)であり、都心調査と同じく10代~20代が8割を占めた。

居住地は横浜市内が45人(40.2%)、神奈川県内がやや少なく11人(9.8%)、関東地方が40人(35.7%)、

表2 訪問観光スポット (上位10位)

観光スポット		単位 (人)									
年齢層/居住地	横浜中華街	みなとみらい21	よこはまコスモワールド	横浜ランドマークタワー	横浜スタジアム	横浜八景島シーパラダイス	新横浜ラーメン博物館	横浜元町ジョックビングストリート	横浜アリーナ	よこはま動物園ズーラシア	
年齢層											
10代 (n=73)	52	30	24	12	10	5	5	2	4	3	
20代 (n=26)	17	10	6	5			2				
30代以上 (n=29)	13	16	7	8	6	9	3	7	3	3	
居住地											
横浜市内 (n=41)	21	19	10	13	6	7	4	8	6	5	
神奈川県内 (n=31)	18	11	13	4	6	2	1				
関東地方 (n=30)	27	14	12	6	1	5	5	1	1	1	
それ以外 (n=18)	15	11	2	2	3						
計 (n=128)	81	55	37	25	16	14	10	9	7	6	

観光スポット		単位 (人)									
年齢層/居住地	横浜中華街	みなとみらい21	横浜赤レンガ倉庫	山下公園	よこはまコスモワールド	横浜ランドマークタワー	新横浜ラーメン博物館	横浜スタジアム	よこはま動物園ズーラシア	横浜アリーナ	
年齢層											
10代 (n=57)	22	21	19	12	14	13	11	9	9	8	
20代 (n=41)	14	6	6	3	3	3	2	2	1	1	
30代以上 (n=25)	6	6	4	5	2	2	1	1	1	2	
居住地											
横浜市内 (n=49)	10	10	8	7	8	10	4	9	9	5	
神奈川県内 (n=12)	2	2	2	3	2	1	2	1	1	2	
関東地方 (n=46)	20	14	15	6	8	6	3	1	1	4	
それ以外 (n=16)	10	7	4	4	1	1	5	1			
計 (n=123)	42	33	29	20	19	18	14	12	11	11	

(アンケート調査により作成)

注: 性別未回答者も含んでいる。灰色セルは訪問率4割以上、斜線セルは訪問率3割以上を示している。

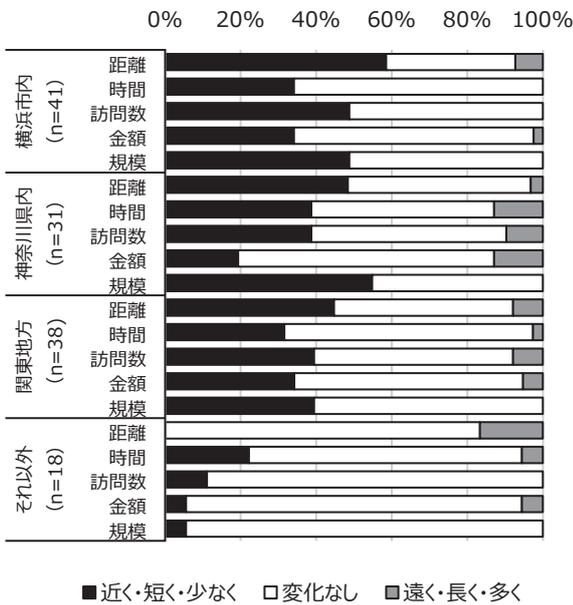
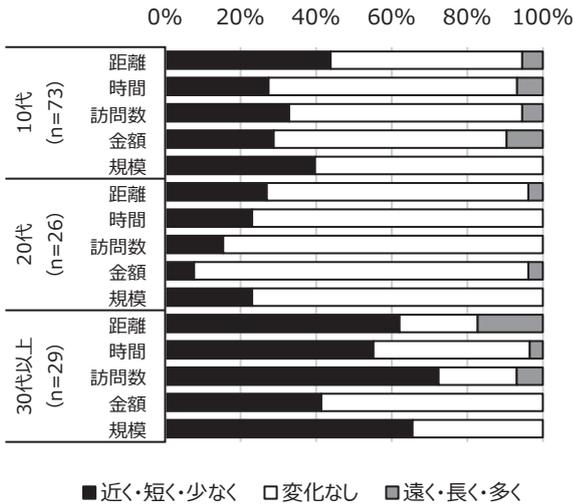


図3 COVID-19の影響(都心調査)

(アンケート調査により作成)

注: 上図が年齢層別, 下図が居住地別である。

そしてそれ以外が15人(13.4%)となり、八景島調査においても横浜観光の集客圏は関東地方を中心としていることが分かった。

2) 訪問観光スポット

八景島調査の回答者を見ると(表2-b)), 横浜・八景島シーパラダイスが都心観光地から離れているにもかかわらず、「横浜中華街」や「みなとみらい21」, 「横浜赤レンガ倉庫」, 「山下公園」も合わせて訪れる観光客が各20人以上おり、広い範囲を周遊する観光客が少なからずいることが分かった。ただし、その周遊性は10代の若者や関東地方以遠からの観光客でやや強く表れており、こうした人々が横浜・八景島シーパラ

表3 回答者の基本属性(八景島調査)

性別	年齢層		居住地(人)					
			神奈川県内		関東地方	関西地方	その他	
	人	(%)	横浜市内					
男性	10代	20	40.8	8	1	7	4	4
	20代	19	38.8	5	1	8	1	
	30代	4	8.2	1	1	2		
	40代	2	4.1	1		1		
	50代	2	4.1	1	1			
	60代以上	2	4.1	2				
計	49	100.0	18	4	18	5	4	
女性	10代	32	50.8	18	3	8	3	0
	20代	20	31.7	3	2	11	3	
	30代	4	6.3		1	3		
	40代	3	4.8	3				
	50代	2	3.2	1	1			
	60代以上	2	3.2	2				
計	63	100.0	27	7	22	6	0	

(アンケート調査により作成)

ダイスだけでなく、横浜都心での観光も満喫する意欲をもっていることが示唆された。

3) COVID-19の影響

八景島調査における横浜観光へのCOVID-19の影響を、年齢層・居住地別に示したものが図4である。年齢層ごとの傾向は都心調査とかなり類似しており、30代以上でマイクロツーリズムへの影響が色濃く出ている。一方居住地別では、八景島シーパラダイスの地元である横浜市内在住者にマイクロツーリズムへの意識がやや働いたことが読み取れるが、どちらかといえどいずれも「変化なし」が大勢を占めており、COVID-19の影響は少なかった。横浜・八景島シーパラダイス自体が横浜都心から離れてやや不便な場所にあるアミューズメントパークであり、横浜・八景島シーパラダイスを目的地とする観光客は、COVID-19があろうとなかろうと最初からここを目的に訪問したものと推察される。

以上のように、COVID-19が横浜観光にもたらすマイクロツーリズム化の影響は、都心観光のほうにやや強く表出しているものと本研究では結論づけた。

3. 横浜以外の観光地の検討について

最後に、アンケート調査では今回の観光で横浜以外に候補地を検討したかどうかとも尋ねた。その結果、具体的な地名を挙げた回答者の場合、同じ神奈川県内の「鎌倉」は「近いから」、「逗子」は「近くて人がなさそうだから」と、COVID-19を不安に感じ、密集を避けられそうな近隣観光地を検討した人もいたようである。しかしながら、大半は「美味しいものが食べたいから」や「ショッピングがしたいから」、「スノーボードがしたいから」など、自分の趣味嗜好で候補地を

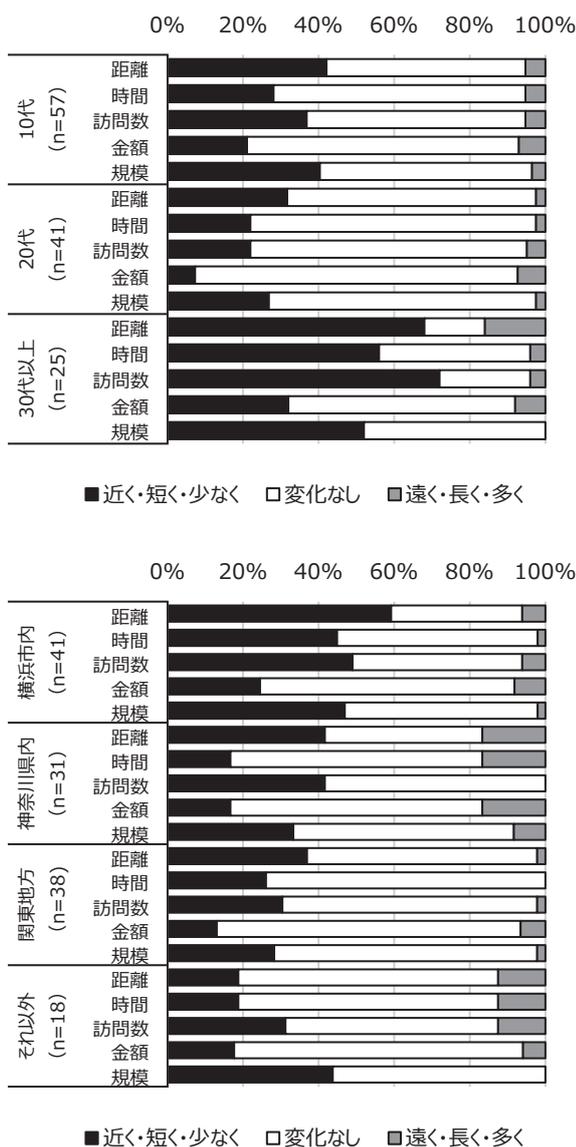


図4 COVID-19の影響（八景島調査）

（アンケート調査により作成）

注：上図が年齢層別，下図が居住地別である。

討しており、全体として観光意識や行動が COVID-19 に配慮したものとなっているとはいい難い結果であった。これは、本研究の回答者が若年層に偏っていたことも影響しているのかもしれない。

IV おわりに

本研究では、COVID-19 が横浜観光のマイクロツーリズム化にもたらす影響を、アンケート調査を通じて明らかにしようと試みた。その結果、都心観光と八景島観光で比較すると、都心観光のほうがマイクロツーリズムにじゃっかん傾倒し、年齢層では30代以上、居住地では関東地方よりも近隣来訪者でマイクロツーリ

ズム的な意識や行動が拡大していることが指摘できた。

一方で次のような課題も残った。1点目は、アンケート調査回答者の年齢層にかなりの偏りが出てしまった点である。とりわけ、壮年～中高年層の観光意識や行動が COVID-19 によってどう変容したのかは、明確に示すことができなかった。

2点目は、アンケート調査の質問項目のなかに、観光地への「来訪目的」や「訪問回数」を入れていなかった点である。これらはマイクロツーリズムや COVID-19 の影響を測るために必要な項目だろうと考える。

3点目は調査地域の問題である。本研究では2日間という短期間のなかで都心と八景島の2か所でしか調査を行えなかったが、横浜観光には他にも横浜アリーナや新横浜ラーメン博物館など有名な観光地があるため、より多くの観光地で調査を行い、COVID-19 下での横浜観光の全体像を分析する必要があったであろう。いずれも今後の課題としたい。

謝辞

本研究の調査を行うにあたって、お忙しいところ横浜観光に訪れた方々には快くアンケート調査に応じていただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 日本政府観光局 (JNTO) ホームページ (<https://www.jnto.go.jp/jpn/>) の「訪日外客統計 (報道発表資料)」(最終閲覧日: 2022年8月21日) を参照。
- 2) 『東洋経済新聞 ONLINE』(2020年10月30日付) の「Go To トラベルの衝撃と『星野リゾート』の現状」(<https://toyokeizai.net/articles/amp/384972?display=b&event=read-body>) (最終閲覧日: 2022年6月30日) を参照。
- 3) 横浜市ホームページ (<https://www.city.yokohama.lg.jp/>) (最終閲覧日: 2022年8月22日) の「観光入込客数」を参照。

文献

公益財団法人日本交通公社観光地域研究部市場調査チーム 2020. 『新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向 (その4) —JTBF 旅行意識調査結果より—』公益財団法人日本交通公社。

鈴木克義 2021. With コロナ時代のツーリズム—マイクロ/パーチャルトーリズムの台頭と After コロナへの取り組み—. 常葉大学外国語学部紀要 37 : 23-33.

高橋慎太郎 2020. With/After コロナの観光モデルの模索—ご近所観光とその楽しみ方の提案について—. 和歌山大学 Kii-Plus ジャーナル 1 : 93-104.

日本政策投資銀行北陸支店・富山事務所 2020. 富山・石川・福井県民のマイクロツーリズムに対する意識調査. 2020 年度調査研究レポート：1-10.

横浜市文化観光局 2020. 『令和元年度集客実人員調査及び観光動態消費動向調査報告書（概要版）』.

横浜市文化観光局 2021. 『令和2年度集客実人員調査及び観光動態消費動向調査報告書（概要版）』.